



学校だより

今年度を振り返って

保護者の皆様、地域の皆様、大笹生学園及び関係機関の皆様には、日頃より大変お世話になっております。

長引くコロナ禍の中ではありますが、学校は新しい生活様式に則り、児童生徒の学びを止めることなく教育活動を行っています。新型コロナウイルスの感染状況により、学校行事の変更もありましたが、児童生徒達が校外での活動で活躍する場面が数多くありました。

初めに、防災・放射線教育として、小学部、中学部、高等部の児童生徒達が双葉町にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学しました。それぞれの学部では、事前・事後学習を行い、災害に対する心構えの大切さを学びました。

次に、小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習です。これまでも交流を続けてきた学校との交流は、感染症対策をしながら行いました。児童が住んでいる地域の小学校との居住地校交流では、新たに加わった小学校もありました。複数の特別支援学校と高等学校が一堂に会し、授業で学習したことを発表する機会もありました。

さらに、本校がこれまでに取り組んできたことをまとめたものが、全国規模の事業である農林水産省主催の「ノウフクアワード2021」でチャレンジ賞を受賞しました。これは、小学部、中学部で作物を育てたり、収穫したりした学習が基礎となり、関係者の協力のもとに高等部で農業体験をしてきたことが、今後の農福連携につながる取組として評価されました。

さて、令和4年4月には、いよいよ福島県立だて支援学校が開校します。令和3年12月6日に、本校において校章、校歌、制服が公表されました。校歌については、高等部の生徒により披露されました。伊達地区から通学している児童生徒達の多くは、新しい校舎で新学期を迎えます。友達と離れる寂しさはありますが、同じ地区の県立知的障がい特別支援学校同士の交流は続けていきたいと考えています。

今後も、本校は、地域と共に歩む学校をめざしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

大笹生支援学校校長 丹野 好恵

小学部

今年も「まないた山ゆうびんきょく」の学習で、5年1組、6年1組、6年2組の児童が大活躍。はがき作り、消印押し、仕分けや配達など、みんなのために働く姿は下級生の憧れとなっています。お正月にちなんだ絵を描いた切手付き年賀はがきが、学校中を行き交いました。



中学部

1、2学期には、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった学部集会ですが、3学期は1月19日(水)に感染症対策をとりながら実施しました。体育館、エリア、自立活動室をリモートでつなぎ、各学年対抗の玉入れを行いました。結果は、1年生の優勝でした。玉入れはもちろんですが、準備や後片付けなどにも進んで取り組む生徒たちの姿が見られ大変盛り上がった学部集会になりました。



高等部

2月8日(火)に卒業生を送る会が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、それぞれの学年からの発表等を事前に録画し、各教室で鑑賞する会となりました。会はこれまでの学習の成果や卒業生を送る気持ちなどが十分に表れ、社会への旅立ちを祝うことができました。また、卒業生一人一人には在校生から温かいメッセージやエールなどが送られ、心温まる会となりました。



(学校だよりは HP でもご覧いただけます。)